

◆九月十三日

日高山入相花王

～渡し場の段～

皇位継承をめぐる争いから命を狙われる身となった桜木親王は、山伏安珍となり、紀州真那古の庄司の家にかくまわれていました。恋人の姫君と再会し、二人で庄司の家を出て道成寺に向かいます。実は親王の身分であるとは知らずに安珍を慕っていた庄司の娘清姫は、その後を追いかけて、日高川のほとりに辿り着きました。清姫は船頭に川を渡してくれるよう頼みますが、安珍から金をもらって渡さないように頼まれていた船頭は冷たく断ります。清姫は、安珍への想いが断ちきれず、嫉妬に狂い自力で川を渡る決心をします。恋の執念は、清姫を蛇体に変身させ、川を渡り切ります。



殺しの罪で追われる身であったため、半兵衛はお園のためを思っ承知しません。半兵衛は代官所へ行き、半七の代わりに縄を受けていました。二人の父親の愛情に皆が涙します。皆が一問で語り合っている間に、お園は一人残って「今ごろは、半七さんどこにどうして・・・」と帰らぬ夫を慕うのでした。



傾城阿波の鳴門

～巡礼歌の段～

十郎兵衛・お弓の夫婦は、徳島の玉木家の家宝の刀を探すため大坂に住み、十郎兵衛は盗賊の仲間に入っていました。お弓が神仏に願をかけているところに、巡礼の娘が訪れます。国許に残してきた自分の娘と同じ年頃なので、話を聞いてみると両親を探して徳島からはるばる旅をしてきたという身の上を語ります。両親の名前を聞いてみると間違いなく自分の娘であることがわかりました。今すぐに抱きしめ、母と名乗りたい思いを抑え、盗賊の罪が娘に及ぶことを恐れて、国へ帰るよう諭します。このままここにおいて欲しいと頼むおつるを、お弓は泣く泣く追い返します。おつるの歌う巡礼の歌が遠のくと、お弓は泣き崩れるのでした。しかし、このまま別れてはもう会えないと思ひ直し、急いでおつるの後を追います。



艶姿女舞衣

～酒屋の段～

大阪上塩町の酒商人「茜屋」の主人半兵衛の息子半七は、女舞芸人の三勝と深い仲になり、娘までもうけて妻のお園には見向きもしませんでした。あまりのことにお園の父宋岸は、お園を実家に連れ戻し、半七は勘当されました。実家へ戻っても半七との別れを悲しみ続けるお園に心を痛め、宗岸はお園を伴い、再び嫁として迎えてくれと頼みに来ます。が、半七は人

令和八年 安乗神社秋季例大祭奉納

国指定重要無形民俗文化財

安乗の人形芝居番組



写真: 泊 正徳

舞台改修記念特別企画

中学校OBによる『絵本太功記』

日時／令和8年9月12日(土)・13日(日)

※午後5時から三番叟上演

午後6時30分開演

場所／安乗人形芝居舞台(安乗神社境内)

■主催 安乗神社・安乗人形芝居保存会
■後援 志摩市・志摩市教育委員会・志摩市観光協会・安乗自治会
■助成 公益財団法人 三菱UFJ信託地域文化財団

令和八年度
人形
遣い手

東海中学校
郷土芸能
クラブ

安乗人形芝居
保存会役員

浅井多美代	池田 光	池田 路子	石本 鈴代	大畑 拓人	岡田 文孝	尾崎 壽美	片山 雄貴	城山みのり	谷岡 茂良	坪谷 奏	出口みさと	留田 敏和	中北 純子	南部真奈美	西村 勝和	濱口 祐子	前田 佳兵	三橋千奈美	本岡美保子	森本 泰史	池田 良晃	上田 晴香	仲野 政宏	橋爪 望美	濱田ゆかり	松井 大司		
柴原 佑和	豊嶋 悠悟	南部 純人	橋本 烈海	濱口 悠聖	濱田 緑	晝川 竜児	向井紗由季	山川 凌空	上田 奏愛	上村 汐里	尾原ひまり	北井 心温	出口 結夢	大畑 絢都	坂下 脩斗	柴原 康輔	仲野 柊二	向井 悠合	森安 貫	山川 大空	山川 鈴	池田 良晃	上田 晴香	仲野 政宏	橋爪 望美	濱田ゆかり	松井 大司	
会長 尾崎 壽美	副会長 濱口 聖治	副会長 岡田 文孝	書記 南部真奈美	会計 西村 勝和	理事 片山 崇	理事 石本 茂男	理事 仲野 一廣	理事 迫間 ゆか	理事 磯崎 松久	理事 山川 久安	理事 片山 修一	理事 南部 望	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一	理事 山川 久安	理事 山川 修一

舞台設営 南部 望

顧問 志摩市長 橋爪 政吉

◎保存会員一同益々精進して参りますので、今後とも皆様の温かいご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。